AKO CITY
赤穂市

会見年月日	令和５年３月２４日（金曜日）
担　当　課	教育委員会文化財課市史編さん担当　（担当者名：小野）
問い合わせ先	TEL：0791-43-6848　（内線：　）　FAX：0791-43-6848

赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベースの追加更新について

１．趣　旨

平成３０年７月から公開している赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベースについて、このほど、平成２８年度から令和３年度にかけて新たに収集された約６００点を追加収録し、令和５年４月１日（土）より公開を開始する。

なお、同データベースは、立命館大学アート・リサーチセンターとの間に締結した学術交流協定に基づき、同大学との共同で赤穂市が所有・所管する忠臣蔵浮世絵約２０００点のデータベースを構築したものであり、これまで平成２７年度末段階での赤穂市所有・所管のすべての忠臣蔵浮世絵について、画像を含む詳細なデータがインターネットを通じて２４時間閲覧可能なツールとして利用されている。

２．内　容

追加更新前	歴史博物館	１，７０５点
	市史編さん室	１５０点
	赤穂義士会	１０６点
	合　計	１，９６１点
追加更新分	歴史博物館	５５６点
	市史編さん室	４点
	赤穂義士会	４２点
	合　計	６０２点
追加更新後	歴史博物館	２，２６１点
	市史編さん室	１５４点
	赤穂義士会	１４８点
	合　計	２，５６３点

※今回追加収録された主要な作品については、別紙「主要追加作品概要」参照

公開開始　令和５年４月１日（土）～

赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベース　主要追加作品概要

※作品名の後ろの（　）書きはデータベース内の作品番号

【赤穂市立歴史博物館所蔵作品】

１．五粽亭広貞「風流発句合　大星由良之介」

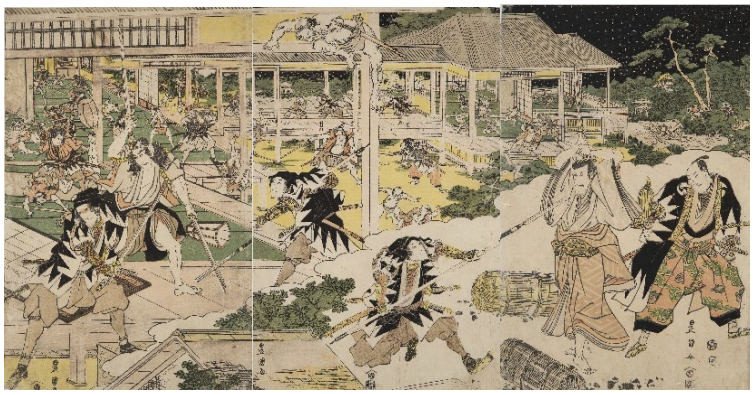
（AkoRH-S0113-01）

嘉永２年(1849) ９月、大坂・筑後芝居での『仮名手本忠臣蔵』の舞台に取材した中判の作品。討入り装束を着け、左手に持った龕燈提灯（がんどうちょうちん）をかざす大星由良之助で、二代目片岡我童（後に八代目片岡仁左衛門）の似顔で描かれている。図中には「松島のゆきのけしきやよもあらぢ　なに(は)芦川」の発句賛が添えられている。

２．葛飾北斎「仮名手本忠臣蔵　七段目」（AkoRH-S0077）

北斎は、文化期（1804～18）を中心に「忠臣蔵」の揃物をいくつか描いているが、これは文化３年に初版が鶴屋金助から出版された無款、横大判の揃物の１枚で、七段目を描いている。このシリーズは、遠近法を使い奥行きを感じさせる風景表現の中に『仮名手本忠臣蔵』各段の場面を描き込んでいるのが特徴である。この図は、七段目の末尾、由良之助が寺岡平右衛門に討入りの供を許し、平右衛門と妹おかるに敵方に寝返った斧九太夫を討たせる場面。

３．歌川豊国Ⅰ「仮名手本忠臣蔵　十一段目」（AkoRH-R0527-01～03）



文化３年（1806）５月の市村座公演に取材している。大判３枚続の画面に邸内での戦闘シーンを描いている。画面手前、雲形で区切られたところに、師直討ち取りの場面が描き込まれている。由良之助は判官形見の短刀を突き付けて生害を促しているが、師直は刀を振りかざして抵抗を見せている。由良之助は初代沢村源

之助、師直は五代目松本幸四郎である。

４．歌川豊国Ⅱ「若さの介　市川団十郎/師直　片岡仁左衛門/かおよ御ぜん　岩井粂三郎」
(AkoRH-S0051-01～03)

文政１０年（1827）７月市村座の『仮名手本忠臣蔵』の舞台に取材している。鶴ケ岡八幡宮の社頭、師直が顔世御前を口説きかかるのを見とがめた若狭之助に対して、師直が余計な仕業とののしり、怒った若狭之助が刀に手をかけ緊張が高まる場面を大判３枚続に描く。若狭之助は七代目市川団十郎、師直は七代目片岡仁左衛門、顔世御前は二代目岩井粂三郎の似顔で描かれている。

５．歌川豊国Ⅲ「加古川本蔵　市川団蔵　三猿」(AkoRH-R0523)

三代豊国晩年の役者大首似顔絵集の１枚。六代目市川団蔵を『仮名手本忠臣蔵』九段目の虚無僧姿の加古川本蔵で描いている。大きく見開いた眼と固く結んだ口元に、大星父子に討たれる覚悟を胸に秘めた様がにじみ出ている。万延元年（1860）に刊行されたもの。

６．歌川国芳「庭の月」(AkoRH-S0008)

『仮名手本忠臣蔵』七段目、祇園一力茶屋の場。敵の目を欺くため遊興にふける父大星由良之助のもとに顔世御前からの密書を届けにきた力弥を描いた団扇絵。頬かむりをして人目を忍ぶ様子が描かれている。力弥の顔は三代目岩井粂三郎の似顔になっている。頬かむりには、布目を凹凸で表現する布目摺りの技法が使われている。嘉永６年（1853）に刊行されたもので、団扇の骨に貼って使用されてしまうことが多いため、未使用の状態で残ることは少ない。

７．勝川春英「忠臣蔵　九段目」(AkoRH-R0581-02)

勝川春英は数種にわたって「仮名手本忠臣蔵」各段を描くシリーズ物を手がけているが、これは寛政（1789～1801）中期～後期ごろに版元西村屋与八から出版された間判 11 枚揃と目されるシリーズの１枚。図は、九段目の冒頭「雪こかし」で、山科の大星閑居の庭先で力弥が雪だるまを作るのをお石と下女が見守っている様子が描かれている。

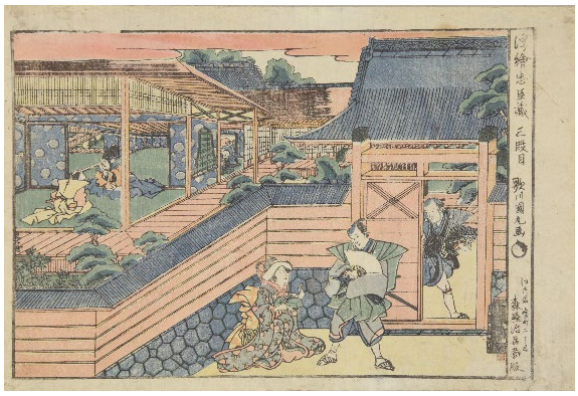
なお、この九段目の図は、現時点ではこの１枚が確認されているのみ。

８．昇亭北寿「仮名手本忠臣蔵　七段目」(AkoRH-S0090)

中判のシリーズ物の１枚と思われる。図は『仮名手本忠臣蔵』中もっとも著名な場面である七段目の密書盗み読みの場面を描いている。すなわち、由良之助が縁先で密書を隠れ読むのを、階上からおかるが延べ鏡に映して盗み読み、床下では読み垂らした書状を斧九太夫が盗み読むという場面。絵師の北寿は葛飾北斎の門人。刊行は享和（1801～04）～文化（1804～18）ごろ。

なお、この図も、歴史博物館所蔵品のみが唯一確認されている。

９．歌川国丸「浮絵忠臣蔵　三段目」(AkoRH-S0038)



絵師歌川国丸は、歌川国安・歌川国直とともに初代歌川豊国門下の三羽烏といわれた。『仮名手本忠臣蔵』各段を、西洋の遠近透視図法を加味して距離感を強調した「浮絵」の手法で描いた横大判揃物の１枚。図は三段目の「文遣い」、顔世御前から師直への返歌の入った文箱を腰元おかるが勘平にことづける場面。画面左方、館内では師直と判官の対峙が描かれている。刊行は文政期（1818～30）と思われる。

10. 歌川国芳「忠臣蔵義士両国橋引取之図」(AkoRH-S0007-01～03)

文政(1818～30)後期に版元加賀屋吉兵衛から出版された、歌川国芳初期の作品のひとつ。討入り本懐を遂げた義士一党が両国橋を渡って亡君菩提所へ引き揚げていくところへ、馬上に槍を携えた旗本服部逸郎が押し留めて事情を問い質す場面を、大判３枚続のワイド画面に描く。背景には、歓楽街であった両国の見世物小屋や水茶屋などが描かれている。

11. 歌川国芳「義士真像　不破勝右衛門正種」(AkoRH-S0009)

「義士真像」は、討入り装束に身を固めた義士の全身像を虚飾を排して描こうというシリーズで、嘉永６年（1853）～７年に刊行され、現在まで２２図の板行が確認されている。義士の名前は実名とは若干変えているが、その顔貌や、討入り装束の両袖口をギザギザの雁木模様ではなく白布を縫い付けた状態に描いているのも、真実味がある。本図は、不破数右衛門がモデル。画面左方の短冊には、「永世に名をハとゝめて不破の関　あとなき物のあとハありけり」の歌が書かれている。歴史博物館では、これまでに「織辺安兵衛武庸」と「岡嶋安右衛門常樹」の２図を収集している。

12. 五粽亭広貞「大星由良之助」(AkoRH-S0109)

上方の絵師五粽亭広貞による中判の役者絵。嘉永４年(1851)５月、大坂・中の芝居（中村駒之助座）での『(義士伝読切銘々伝聞書）仮名手本忠臣蔵』に取材している。この芝居は『仮名手本忠臣蔵』に別のストーリーを挿入した書替え狂言であった。このとき由良之助を演じた四代目中村歌右衛門を大首絵で描いている。

13. 豊原国周「実録忠臣蔵　山科寓居之図」(AkoRH-R0579-01～03)

明治２３年（1890）５月、東京・歌舞伎座で上演された『実録忠臣蔵』に取材している。この芝居は、福地桜痴作、三代目河竹新七補で、実録風に浅野内匠頭の刃傷から義士の討入りまでを脚色した全７幕の作品であった。この演目は不評であったので、残された浮世絵は少ない。この図は、五幕目「山科大石寓居の場」を描いている。そのあらすじは、放埒にふけって敵討ちの気配を見せない内蔵助に母千寿院と妻およしは意見するが聞く耳を持たず、およしは離縁を申し出、内蔵助は本心を隠して去り状を書き、千寿院とおよしは家を出ていくというものであった。千寿院は三代目中村（高砂屋）福助、内蔵助は九代目市川団十郎、大石主税は二代目中村政次郎、妻およしは二代目坂東秀調。

【赤穂市教育委員会市史編さん室所蔵作品】

１．歌川芳藤「三枚つゞき忠臣蔵三段目組上ケ図」(AkoCH-S0085-01～03)

組み上げ絵（立版古とも）の作品。作者は「おもちゃ絵」の名手歌川芳藤。『仮名手本忠臣蔵』三段目「裏門」の場面を組み上げるパーツが大判３枚にわたって描かれている。殿中で判官が師直に刃傷に及んだ大事のとき、腰元おかると情事にふけっていた判官側近の勘平が、城の表門からは入れてもらえず、あわてて裏門に駆けつける場面で、師直家臣の鷺坂伴内に襲われるところ。３枚にわたって人物や建物、樹木、背景などがびっしりと描き込まれ、これらひとつひとつを切り抜き、「上」に描かれているできあがりの図を見ながら貼り合わせて組み立てる。今風にいえば、ペーパークラフトやプラモデル。明治２０年（1887）に出版されたもの。

２．一二三斎主人「大江戸根元三芝居役者評判記」(AkoCH-S0084)

慶応３年（1867）の江戸三座の役者評判記の摺物。役者名の上にはこの段階での位付け（「大極上上吉」「極上上吉」「真上上吉」「大上上吉」など）が記されている。下方には、それぞれの役者が当たり役の姿で描かれている。「忠臣蔵」関係では、大星由良之助（五代目坂東彦三郎）、加古川本蔵（初代坂東亀蔵）、塩冶判官（二代目沢村訥升）、顔世御前（初代岩井紫若）、大星力弥（二代目中村福助か）、おかる（六代目坂東三津五郎か）、大鷲文吾（不詳）、千崎弥五郎（市川新之助か）が見える。

【赤穂義士会所蔵作品】

１．百川子興（栄松斎長喜）「由良之介　市川八百蔵」(AkoGA-G0036)

寛政７年（1795）４月、桐座での『仮名手本忠臣蔵』に取材したものと思われる。このとき大星由良之助を演じたのは三代目市川八百蔵。図は四段目城明け渡しの場の由良之助で、判官形見の短刀を握りしめ仇討ちを誓うところである。

なお、絵師の百川子興（ももかわしこう）は謎の多い絵師で、作画期は天明（1781～89）末ごろから文化６年（1809）ごろとみられ、はじめ栄松斎長喜、寛政７、８年ごろ子興と改め、さらに享和元年（1801）再び長喜に戻ったとされている。

２．喜多川歌麿「浮世忠信蔵　十段目」(AkoGA-G0043)

美人画の大家喜多川歌麿は、忠臣蔵の物語をもとにした女性風俗を数多く描いている。「浮世忠信蔵」は、寛政（1789～1801）後期に版元鶴屋喜右衛門から刊行された間判錦絵１１枚揃のシリーズ。図は、『仮名手本忠臣蔵』十段目、天川屋義平が「男でござる」と見得を切った後、長持の中から大星由良之助が姿を現す場面をふまえたもの。姉弟がかくれんぼでもするところであろうか、姉が屏風の箱の中に隠れ、幼い弟は母親に目隠しをしてもらうというほほえましい情景に置き換えて描いている。

本図は、現在までのところベルギー王立美術歴史博物館に所蔵が確認されているのみ。

３．歌川国貞Ⅰ「大星由良之助　坂東三津五郎/寺岡平右衛門　市川団十郎/妹おかる　岩井粂三郎」(AkoGA-G0044-01～03)

文政１０年（1827）７月の市村座における『仮名手本忠臣蔵』の舞台に取材している。１枚に１人の役者を描き、画面上部にそのセリフを書き込むという趣向で作画された大判３枚続の作品。

七段目に取材した本図は、密

書を盗み読んだおかるを身請けしようという由良之助の真意を察知したおかるの兄平右衛門が、どうせ殺されるなら兄に殺させてくれと頼む場面。由良之助は三代目坂東三津五郎、平右衛門は七代目市川団十郎、おかるは二代目岩井粂三郎である。

４．楊洲周延「仮名手本忠臣蔵打入ノ図」(AkoGA-G0039-01～03)

明治１５年(1882)の作品。役者似顔で描かれた見立絵と思われる。大判３枚続の画面の前景に、「高野師直」(五代目尾上菊五郎)を取り囲む「大星由良之助」(九代目市川団十郎)、「大星力弥」(四代目助高屋高助)、「大高源吾」(初代市川左団次)を配し、背景には庭先での戦闘を描いている。

５．六花園芳雪「忠臣蔵　五段目」(AkoGA-G0038)

元治元年（1864）９月、大坂・中の芝居での『仮名手本忠臣蔵』の舞台に取材した中判の作品。五段目、おかる身売りの半金を懐中にしのばせた与市兵衛（実川鯱蔵）に、山賊定九郎（初代中村雀右衛門）が迫り寄るところ。背景には、空摺りで卍繋ぎの地紋が施されている。

６．歌川重宣（広重Ⅱ）「仮名手本忠臣蔵」(AkoGA-G0042-01～03)

安政４年（1857）の作品。大判３枚続の背景が藍色の画面に、丸・梅・瓢箪・亀甲・長方形・団扇・扇面・雪輪などの形の枠を散りばめ、『仮名手本忠臣蔵』各段の場面を描き込んでいる。このような描き方を貼交絵という。初代広重の画風を受け継ぐ柔和で淡々とした描写。

７．豊原国周「誠忠義士四拾八人廻り双六」(AkoGA-G0048)

慶応元年（1865）に刊行された絵すごろく。画面右に黒地に白抜きでタイトルと絵師・版元の表記があり、その左に８段６列の方形のマスで区切って、それぞれに討入り姿の四十七義士と萱野三平の顔を描いている。義士の名前は「大石内蔵之助」「堀部安兵衛」など実名に近い。また、義士たちは、三代歌川豊国が元治元年(1864)に古今の役者似顔で義士銘々を描いた「誠忠義士伝」シリーズから援用されており、「大石内蔵之助」は三代目沢村宗十郎、「堀部安兵衛」は八代目市川団十郎、「萱野三平」は三代目尾上菊五郎などとなっている。タイトルには「廻り双六」とあるが、最下段右端「い　大石内蔵之助」から、各段右から左へ「いろは」順にコマを進め、最上段「京　寺坂吉右衛門」で上がりとなるすごろくである。なお、本作品には、雁木模様の枠内に「誠忠義士廻双六」のタイトルと、四代目市村家橘など役者似顔の３人の奴が描かれた袋が残存・付属している。

８．一養亭芳瀧「仮名手本忠臣蔵」(AkoGA-G0041-01～12)

『仮名手本忠臣蔵』の全段を大判１２枚にわたって描くシリーズ。十一段目は、師直討取りと石堂への成功報告の２場面を描く「十一段目」と、両国橋引揚げを描く「大切」の２図となっている。また人物は、由良之助が五代目三枡大五郎、勘平が実川延若というように、当時の上方の人気役者の似顔で描かれている。ただし、実際の芝居の上演に即したものではなく、この役はこの役者でと当て込んで描いた見立絵である。それは、由良之助山科閑居の場を描いた「九段目」の図中の屏風に「浪花惣役者大見立」と記されていることからもわかる。この屏風には「明治六歳大新版」ともあり、明治６年(1873)に出版されたことが判明する(写真は「九段目」)。

■赤穂市立歴史博物館■赤穂市教育委員会市史編さん室■赤穂義士会

忠臣蔵浮世絵の世界へようこそ！

データベース構築：立命館大学アート・リサーチセンター

データベース入口のQRコード

赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベース

新たに 約600点を追加！

令和5年4月1日（土）公開開始！

【上】■芳藤「三枚つゞき忠臣蔵三段目組上ケ図上」(AkoCH-S0085-1)／【下】■歌麿「浮世忠信蔵十段目」(AkoGA-G0043)

■広貞「風流発句合　大星由良之介」(AkoRH-S0113-01)

あなたのパソコンやスマホが博物館の収蔵庫！

赤穂市ホームページ（http://www.city.ako.lg.jp）内の
赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベース入口からアクセス！

赤穂市教育委員会　市史編さん室

〒678-0233　兵庫県赤穂市加里屋中洲3-56（市民会館西隣、旧市立図書館1階）

TEL/FAX 0791-43-6848　Eメール shishi@city.ako.lg.jp

第1回デジタル展覧会「討入り図の諸相」
第2回デジタル展覧会「義士の頭領大星由良之助」
好評開催中！

忠臣蔵浮世絵の世界へようこそ！

■赤穂市立歴史博物館■赤穂市教育委員会市史編さん室■赤穂義士会
データベース構築：立命館大学アート・リサーチセンター

赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベース
新たに約600点を追加！

赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベースは、立命館大学アート・リサーチセンターとの間に締結した学術交流協定に基づき、共同で赤穂市が所有・所管する忠臣蔵浮世絵約2000点のデータベースを構築し、平成30年7月から公開を開始しました。

このデータベースのオープンにより、平成27年度末段階での赤穂市所有・所管のすべての忠臣蔵浮世絵について、画像を含む詳細なデータがインターネットを通じて24時間閲覧可能なツールとしてご利用いただいています。

そして、このほど、平成28年度から令和3年度にかけて新たに収集された約600点を追加収録し、令和5年4月1日（土）より公開を開始いたします。

この機会に、あらためて赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベースにアクセスいただき、忠臣蔵浮世絵の多様な世界をご堪能いただければ幸いです。

■北斎「仮名手本忠臣蔵　七段目」(AkoRH-S0077)

■豊国Ⅰ「仮名手本忠臣蔵　十一段目」(AkoRH-R0527-01～03)

■豊国Ⅱ「若さの介　市川団十郎/師直　片岡仁左衛門/かおよ御ぜん　岩井粂三郎」(AkoRH-S0051-01～03)

■国芳「庭の月」(AkoRH-S0008)

■芳雪「忠臣蔵　五段目」(AkoGA-G0038)

所蔵先の記号
AkoRH：赤穂市立歴史博物館
AkoCH：市史編さん室
AkoGA：赤穂義士会

■子興「由良之介　市川八百蔵」(AkoGA-G0036)

■豊国Ⅲ「加古川本蔵　市川団蔵　三猿」(AkoRH-R0523)

■国貞Ⅰ「大星由良之助　坂東三津五郎/寺岡平右衛門　市川団十郎/妹おかる　岩井粂三郎」(AkoGA-G0044-01～03)

■周延「仮名手本忠臣蔵打入ノ図」(AkoGA-G0039-01～03)

赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベースへのアクセスのしかた

Let's Access To Ukiyo-E Database !

●パソコンで

1. インターネットで赤穂市のホームページ（http://www.city.ako.lg.jp）を開く。
2. トップページの右側にある「忠臣蔵浮世絵データベース」のバナーをクリックして、赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベースの入口ページ（「赤穂市『忠臣蔵』浮世絵データベースへようこそ！」）を開く。
3. データベース入口ページの下方にある「入口」をクリックすると、検索画面が開く。

●スマホで

チラシ表面のQRコードを読み取ってデータベース入口ページにアクセス、「入口」から検索画面に進む。